

# 第2章

## 保育・教育課程

# 1 保育・教育課程の見方

第2章の保育・教育課程では、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法を例示しました。

本保育・教育課程のフォーマットの見方については、次の吹き出しのとおりです。

5歳児 Ⅰ期 (4月～5月)		
ねらい ・新しい環境に自分からかかわり、いろいろな遊びに取り組む。…略…		
学びの芽生え	思考	・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を…
	言葉	・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉…
	創造	・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと…
人とのかかわり	協同	・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさ…
	信頼	・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。…
	規範	・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒に…
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。…
	運動	・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさや…

・各時期の子供の発達を踏まえた成長の実現に向けたねらいを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、各時期に子供に確実に経験させたい内容を示しています。

・各時期の具体的な指導例を示しています。うち、◇印の付いている指導例は、実際の指導の詳細を示しています。

## <指導例>

◇ 年長さんになったよ  
進級の喜びを味わう。

## <援助のポイント>

## <家庭との連携>

・保育者の援助や家庭との連携のポイントを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、子供に確実に経験させたい内容の視点に基づき、生活や遊びの中で子供が経験している内容を示しています。

5歳児 4月  
進級の喜びを味わう

### 「年長さんになったよ」

一人クラスを作り

#### 環境の構成

- 生活の場を自分たちで整えているような機会の設定や物の準備をする。
- 幼稚園内のルール（遊具や用具の扱い方など）の確認、積木や製作コーナーの置き場所を決めること、自分たちでできると考えたこと（飼育動物の世話、昼食時の挨拶、昼食後の保育室の掃除など）に取り組む時間を設ける。
- 必要な用具などを見えやすい所に置いておく。
- 年下の子供の気持ちを考えたり自分たちの経験を振り返ったりして、自分ができることを考え、実際に接する機会を設ける。（朝の支度や遊びの片付けの手伝い、園内巡りなど）

#### 子供の姿

「もう、年長だもん」  
保育者が「うさぎの世話をしようかな」とつがやくと近くにいた子供が「手伝ってあげようか」「私もやりたい」と言ってくる。「できるかな」と保育者が問い掛けると「(前年度の)年長さんに頼まれたからね。もう年長だもん」と張り切って取り組む。「私もやらせて」とその様子を見て取り組む子供が増えていく。また、「こうやるんだよね」と友達同士で確認したり教え合ったりする様子が見られる。

「年少さん大丈夫かな」  
登園後不安で泣き続けている子供の様子をしばらく見ていた年長児がそばに近寄り、「大丈夫だよ」「幼稚園、楽しいからね」と頭をなでたり、「これで遊んでいるよ」と砂場の道具を持ってきて、その子供の前に置いたりする。相手の気持ちを考え自分なりに言葉や掛けたり行動したりする姿が見られる。

「生活のルールをつくらせていく」  
年長児になって役立てようになった大塚様木。大きくて一人で運ぶと危ないことに気付く。「二人なら運べるね」「これなら大丈夫」と二人で運ぶ。クラスでも取り上げて話したところ「二人で運ぶこと」が約束になる。遊びの中や片付けの際には「一緒に運ぼう」と友達に声を掛けて運んだり片付けたりする。

#### 経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

- ★飼育動物の動きや状態などに気付いたり親しみを感じたりする。
- ★文字や数字、記号などに関心をもつ。
- ▲遊具を安全に扱おうとする。
- 友達に声を掛けて一緒に取り組む楽しさを味わったり、力を合わせて取り組んだりしようとする。
- 年下の子供に優しさや親しみの気持ちをもつ。
- ▲自分たちで約束をつくり出す。

#### 援助のポイント

- ◆ やってみたい気持ちが実現していくように環境を構成したり、約束を確認したりする  
年長になった喜びから自分たちでやってみたいという気持ちが大きくなっているの、自分たちの生活を円滑に自信をもって進めていけるようにする。問題になったことはクラス内で取り上げ、必要感をもって話し合ったり共通理解したりしていく。自分たちで生活を進めていけるように当番活動として取り入れ、当番表を指示したり、生活環境を整えていけるように表示したりする。
- ◆ 年下の子供のためにできることを見付け、行動に移していくきっかけをつくる  
年下の子供が困っている様子などについて、気付いたことを知らせ合う場面を設ける。自分たちがこれまで年長児からしてもらったことを振り返り、自分たちにできることを具体的に考えていく。また、かかわったことで相手が泣きやむなど安心した姿を認めて、自信につながるようにしていく。
- ◆ 文字や数字、記号などへの関心を高める  
物の片付け場所や当番表などの表示に文字や数字、記号などを用いることで、生活の中で身近に感じ、関心をもったり遊びに取り入れれたりするきっかけにしている。